

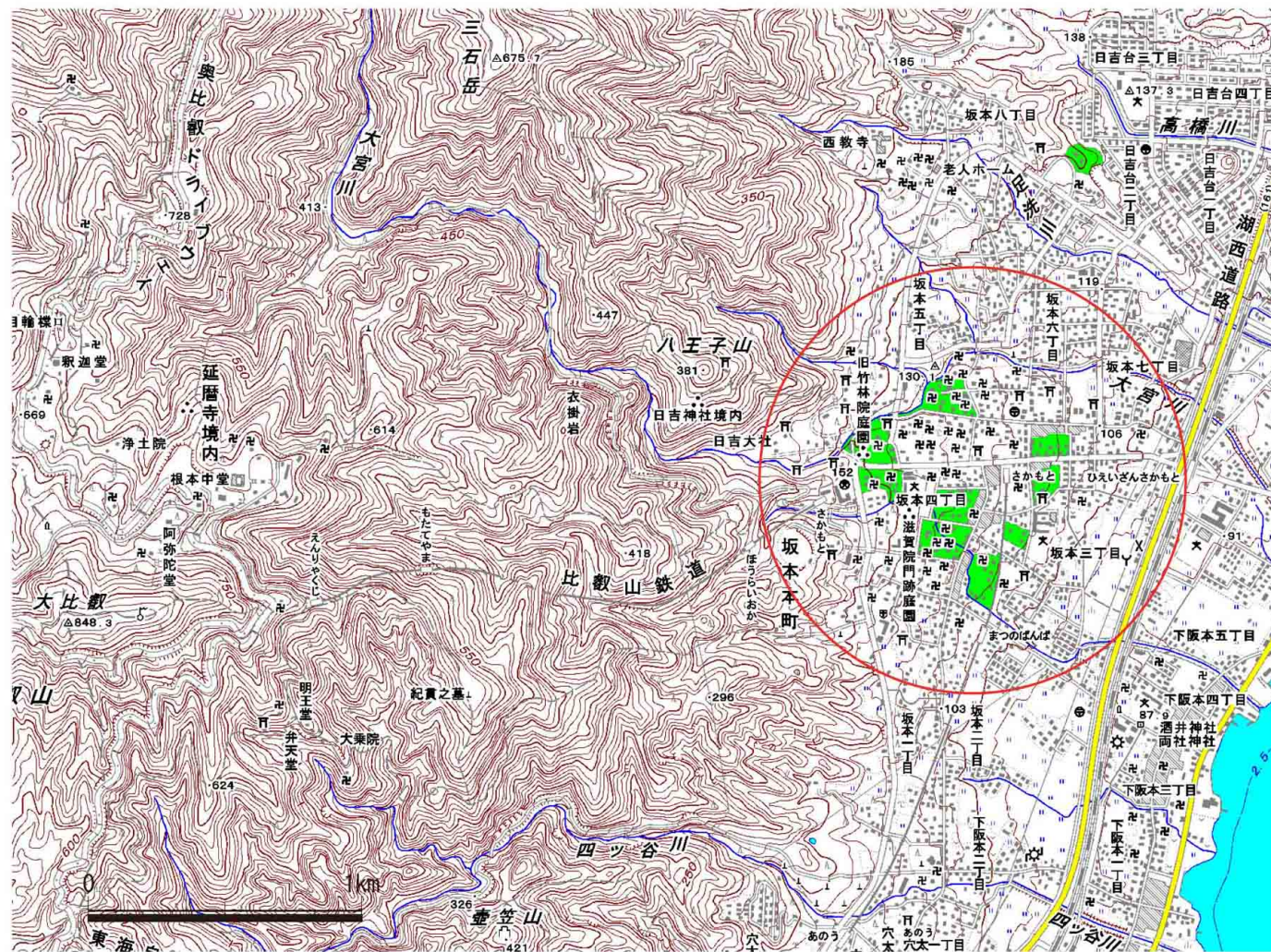
周辺の
みどころ

坂本から琵琶湖に下れば、明智光秀の居城である坂本城跡が見学できる。直接目にできる遺構は、湖中の石垣のみであるが（これも湧水時のみ見ることができる。）、現在の東南寺の境内には付近から出土した石仏類が集められ、城跡の雰囲気を出している。また、この東南寺付近の水路や道路は、坂本城の縄張りを踏襲したものとされ、地図とにらめっこしての町歩きも楽しい。

また、京阪坂本駅から北へ徒歩約30分の山麓には、天台真盛宗の総本山西教寺がある。重要文化財の本堂や客殿などの文化財のほか、明智一族の墓所など、見どころは豊富である。



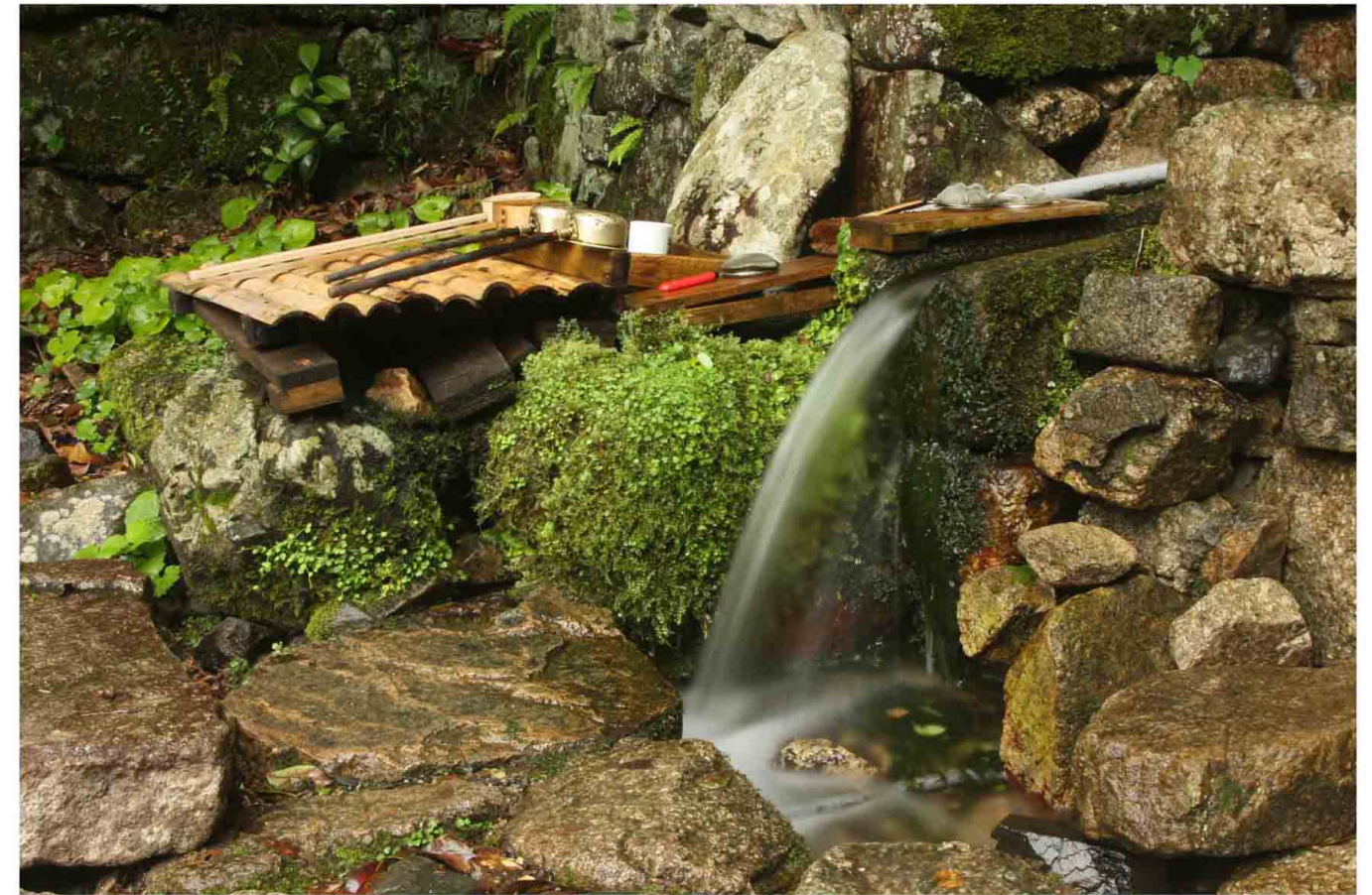
西教寺明智一族の墓



さかもと 坂本

日吉の神水を取り込む門前町

大津市坂本本町



日吉大社東本宮の大神事水

坂本は三つの社寺の門前町である。比叡山延暦寺、日吉大社、そして東照宮の三つである。

門前町の北西隅、八王子山の山麓に日吉大社が鎮座し、南西隅の権現山の山麓には、日吉東照宮が配置される。そして、その中央部、二つの神に抱かれるように、天台座主の里坊である滋賀院門跡が位置する。坂本の町並みは、この三つの宗教施設を軸として広がるのである。

こうした町並みを設計した人物こそ、徳川家康のブレーン、慈眼大師天海である。比叡山の中心の里坊を中央に、その守護神たる日吉神と江戸幕府の始祖神とも言える東照宮を両側に配置する。坂本の町とは、彼の宗教観を反映した曼荼羅のような町並みなのである。



[アクセス]

- 日吉大社：京阪電鉄石坂線坂本駅徒歩、西へ徒歩10分。
その途中には、伝統的建造物群にも選定されている石積みの町並みが続く。日吉東照宮へは、日吉大社から南へ徒歩10分、滋賀院門跡へは、日吉東照宮から東へ10分、途中、慈眼大師を祀る慈眼堂が見学できる。

[もっと詳しく知りたいひとへの案内]

(関連文献/関連施設)

- 大津市歴史博物館 TEL 077-521-2100
- 坂本観光協会 TEL 077-578-6565



日吉大社の山王鳥居



日吉大社東本宮



豊臣秀吉によって寄進されたといわれる石橋



石積みの里坊としだれ桜の大木



坂本に残る古い町屋



いたるところに水が流れる

坂本 日吉の神水を取り込む門前町 所在地 大津市坂本本町

坂本の町に最初に登場するのが日吉の神で、古事記にも登場する大山咋神^{おおやまくい}である。本来、八王子山を神体山とする在地の神であったと考えられるが、近江大津宮時代に、奈良三輪山の^{おおなわち}大己貴神を合祀することになり、一躍、国家神としての地位を獲得した。

大己貴神を迎える経緯については、毎年4月に実施される日吉山王祭の粟津供御献納祭などに見ることができる。湖から来る神を迎える神事で、近江大津宮と言う歴史的な事象とともに、湖にかかる信仰の一端を示すものとしても注目される。

坂本の生源寺で誕生したという伝承を持っているのが伝教大師最澄である。ただし、俗名である「三津野首広野^{みつのおびひろの}」から、琵琶湖岸の大津市域に居住する渡来系氏族の末裔であることは

確実だ。近江国分寺で出家し、日本仏教の牽引者へと進む最澄の幼少期には、崇福寺をはじめとする大津の仏教文化が影響を与えたことは疑いがない。坂本の町にも坂本八条廃寺があり、その塔心礎は石坐神社の石垣に転用されている。

19才の最澄は既存の仏教に飽き足らず、坂本から日吉の神の坐す比叡山に登り、本格的な修行を開始した。一条止観院、後の根本中堂の成立である。その後、多くの高僧を輩出し、また、平安貴族層の信仰を集めた比叡山延暦寺は、中世には、各地に多くの荘園を有する権門勢力としての性格を合わせ持つようになった。そして、その権門勢力としての経済力を支えたのが坂本である。

すなわち、各地の荘園から比叡山に運ばれる物資はもちろん、各地から京都へ運ばれる物資に

ついてもその多くが坂本に陸揚げされるようになり、坂本には馬借^{ばしやく}や車借^{しゃしやく}、問丸^{とまる}などが軒を並べるようになった。京都、博多、鎌倉に比する商業都市であったのだ。

そうした、坂本に打撃を加えたのが織田信長である。敵対する延暦寺を攻撃するために行われた「比叡山焼き討ち」は、実は坂本の町を焼失させたことが、最近の発掘調査によって明らかになりつつある。坂本の町中の発掘調査では、中世末期に大きな火災と破壊があったことが明らかになっている。

しかし、信長の意図は坂本の焼き討ちではなかった。坂本が打撃を受ければ、京都の経済が大きな影響を受けるからである。焼き討ち後には、最も信頼ある部下である明智光秀に坂本城を築かせ、坂本の復興にあたらせている。織田信長に続いて天下を掌握した豊臣秀吉も日吉神社を中心とした坂本の復興に力を注いだ。しかし、京都の門戸は大津に移し、坂本は純粋な宗教の町、門前町として復興されることになった。

その復興は江戸時代にもひき続けられ、天海がこれを推進した。天海は、徳川家康の神号、東照大権現^{とうしょうだいこんげん}は天海が考案したである。最初の墓所である久能山や日光にも東照宮が営まれるが、完成されたものではなく、それに相応しい祭祀の形態と宗教的な位置づけを明確にする必要があった。天海は日吉東照宮において、権現造りと言う新しい神社建築の形式を産み出し、坂本に町並みにその宗教としての位置が明示された。日吉東照宮の正面には、三上山が位置している。まさに、新しい神が創出されたのである。

こうした変遷の結果、坂本は里坊寺院と町屋や、公人と呼ばれる社寺侍の屋敷など、他には見られない町並みを形作っていった。そして、この町並みは、石垣と、大宮川と藤ノ木川から引水された水路によって特徴つけられている。